

道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.28 春号

巻頭インタビュー

道はみんなの財産
さまざまな視点で意見を
金尾健司（九州地方整備局長）

道の駅と風景街道、道守活動の
連携をどう生かす 東九州道

みちづくし in 大分2014

道守・新たな地平(ステージ)をめざして

「あまくさ風景街道」を行く 樗木武

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろう。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



みどりの里・耳納風景街道

CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー
道はみんなの財産
さまざまな視点で意見を
金尾健司（九州地方整備局長）
- 02 道の駅と風景街道、道守活動の
連携をどう生かす 東九州道
- 04 各地の活動紹介
- 06 みちづくし in 大分2014
道守・新たな地平(ステージ)をめざして
- 10 わたしの好きな道
北薩摩西海岸と歴史の古道
～世代、時代をつなぐ薩摩街道出水筋～ 吉留博文
- 11 私たちの道守活動
- 14 「あまくさ風景街道」に行く
樗木武
- 16 海外道事情
ミニマムでリッチな
ナショナルツーリストルート(ノルウェー) 星野裕司
- 17 道守人物伝・道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭 インタビュー

金尾健司

（九州地方整備局長）

道はみんなの財産 さまざまな視点で意見を

九州の道守さん達は、「道はみんなの財産」という意識で道守活動を進めています。また、大分でのみちづくしにご参加いただき、どのような印象をお持ちになりましたでしょうか。

金尾局長 常日頃から道路行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

「道はみんなの財産」と思って頂けることは、道路を管理する者としてこれほど嬉しいことはありません。昨年、11月に参加させて頂いた「み

ちづくし in 大分」では、皆様の高い志と温かい交流ネットワークが強く形成されていることを強く感じました。この10年余「道守」の方々は着実に歩みを進められてきたことに敬意を表すとともに、私たち行政へも変わらぬ信頼を寄せて頂いてきたことに感謝申し上げます。

地域の団体が活動する中で、行政と市民との関わりについて、河川と道路では異なったところがあると思

金尾局長

河川も流域団体と行政の

連携により、地域に根ざした川づくり・地域づくりが進められており、河川や海岸の美化活動にボランティアで参加される団体の活動も盛んになっており、様々な点で道守と共通する部分があるように思います。「道」で活動される方々と「川」で活動される方々のコミュニケーションも今後進んでいけば良いのではと思っています。

九州の観光活性化が期待されます。高速道路の開通により観光客呼び込み「素通り」を心配する声もあり、そのためにも、道の駅は集客や地域情報の発信、風景街道・道守は地域資源の磨き上げなどの特長を生かし、お互いが連携・協働し、多くの人が観光地や名所に足を伸ばして頂けるようにする必要があります。

道の利用者には、自動車だけでなく歩行者もいます。特に高齢者や障がい者、ベビーカーを利用する若いお母さん達にとって安心して利用できる道のあり方についてどのように

お考えでしょうか。

金尾局長 道路はこれまで、物流や車の流れといったイメージが強調されておりましたが、「道」には様々な機能が有ると考えております。高齢者や障がい者、ベビーカーを利用する方などの歩行空間としての活用はもちろんですが、イベント時などにも利用いただける。これからは、「道」の持つ価値や可能性をもっと引き出し、「道」という空間を上手く活用していただきたい。皆様からの様々なアイデアやご意見を出していただければと思っています。

新しい公という住民と行政のあり方の中で、道守活動に関して今後はどのような活動がどうあるべきとお考えでしょうか。

金尾局長 「道」を舞台に活動されている道守の方々は、「道路のこと



議代表世話人（インタビュー・牧圭子（道守長崎会

プロフィール

京都府出身。1958年5月12日生まれ。東京大学大学院工学系（土木）修了。83年4月旧建設省入省。97年4月九州地方建設局川辺川工事事務所長08年7月関東地方整備局河川部長、09年7月同企画部長、12年9月水管理・国土保全局河川環境課長、13年8月同河川計画課長、14年7月から現職。

道の駅と風景街道、道守活動の連携をどう生かす 東九州道

大きなチャレンジ 地域活性化への道開く

道の駅、風景街道、道守の3者がどのように連携、協働して、お互いの活動を発展させて、地域活性化に結び付けてゆくかが大きな課題となっている。特に、東九州道の開通を地域振興・観光客の呼び込みの大きなチャンスととらえる半面、「素通り」される地域となることを心配する声も。

道の駅と風景街道の連携は、昨年、佐賀県・鹿島市で開催された道の駅全国大会のシンポジウムでも議論された。道の駅は地元産出品の物販は、多くの道の駅で順調に売り上げを伸ばしている。もう一つの道の駅の役割である地域の「情報発信機能」は必ずしも十分ではないのではないかとという問題意識が強い。道の駅で買い物はしても、その地域周辺の観光地や名所へ足を延ばす人は少なく、道の駅が情報発信機能を高めるにはどうすればよいか、さまざまな角度から議論が交わされた。

道の駅を訪れた人は、パンフレットや地図を受け取り、周辺の「見どころ」へ足を延ばす。来訪者の滞在時間も伸びるし、地域も潤う。また、風景街道に訪れた人々が、道の駅に立ち寄り、駅側も来訪者が増え、メリットが生まれる。そうしたお互いウィンウィンの関係を築き上げたい。



東九州自動車道佐伯・蒲江間が開通

九州風景街道推進会議では、道の駅とお互いにとって良い連携・協働の関係を結ぶには、どうすればよいか、道の駅を対象にしたアンケート調査を行っている。その結果、「地域の観光情報が十分に発信できていない」「風景街道、道守そのものが十分知られていない」ことが浮き彫りになった。

情報発信については、道の駅が多忙で、観光案内等への人的、時間的な余裕がないことや地域観光情報についての不足、パンフレットの更新が難しい等の問題点が挙げられた。また、風景街道パートナーシップに参加していない道の駅もあった。

しかし、日南きらめきラインの様に、道の駅が風景街道、道守と積極的に連携しているところもある。サイクリングツアーや物産展の開催などが共同で計画され、道守活動とは沿道修景の磨き上げや点検ツアー等が実施されている。また、道の駅とウォーキングツアー等を協力して進めようとしているところ（玄界灘風景街道）や道の駅「かまえ」を拠点としてノルディックウォーク（日豊海岸シニックバイウエイ）の検討が行われてところもある。

東九州道 佐伯～蒲江間開通（3月21日）

3月21日、東九州道・佐伯～蒲江IC間（20・4km）が開通、祝賀式が行われた。西九州軸（九州自動車道）に比べて、大きく遅れた高速道路だけに、地元の大分、宮崎県で両県は「活性化への道」（大分県知事）を拓くものとして期待が大きい。その中で、高速道路の利便性を活用して、北九州や福岡都市圏、さらには海外からの観光客、地域間の交流人口を増やす「観光交流」（国交大臣）で、いかに地域活性化に結び付けるか。

「いのちの道」「活性化への道」拓く

注目されるのは、高速道路沿いに建設された情報発信基地「道の駅」をスタートに、風景街道の魅力で観光客をひきつけるかだ。そのためには、道、街を美しくする道守活動が一層重要になる。

東九州道は国の直轄事業で完成した無料区間が多く、サービスエリアに代わる「道の駅」が大きな役割を

果たすことになる。開通に合わせて、蒲江IC近くに「インターパーク」が開店した。蒲江を中心に「伊勢海老海道」など風景街道活動が活発に進められているだけに、訪れる人が増えることが期待される。

また、佐伯市は佐伯IC近くにも同様な施設を計画中だ。「道の駅」的な役割に加えて、防災機能をも果たす目的もある。高速道路は救急医療など「命を守る道」

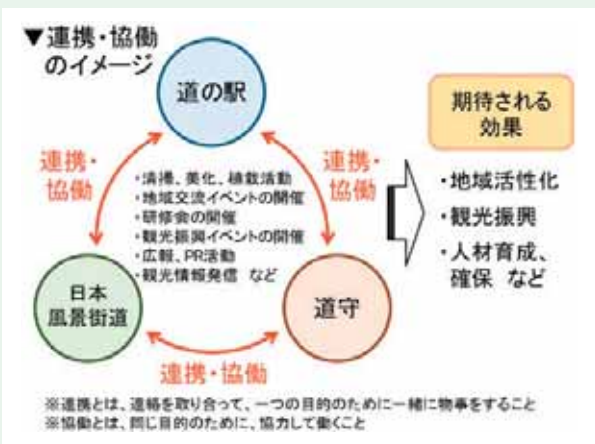
だが、東日本大震災では高速道路が高台避難の場所として多くの命を救う役割を果たした。東九州沿岸では南海トラフを震源とする津波被害が想定されているため、新しい道の駅が防災拠点としての役割が果たせるよう施設、装備、備蓄機能を充実させる計画だ。道の駅、風景街道、道守の3者連携がいよいよ重要になる。それはまた、地方創成の大きな実験となる。



蒲江インターパーク



開通式典





各地の活動紹介

各県会議で平成26年度に実施した道守活動を紹介します。

新たなグループが参画したり、イベントに参加して道守活動をPRしたり、意見交換にワークショップを取り入れるなど、様々な取り組みがなされ、10年が経過して活動内容が年々充実してきました。

●道守ふくおか会議

道守うきはネットワーク発足！
「道守うきはネットワーク」が1月26日に発足しました。これまでは、うきは市内の7つのボランティア団体（よしいコスモス街道実行委員会、久大生コン内環境美化委員会、キラキラ花の会、うきはフルツツロード保全会、川原町老人クラブ、グループ「道草」、福富地区自治協議会）が、春には「はなもも」、秋には「コスモス」などを育成し、それぞれで活動していました。これからは7団体が結束し、地域の絆を強めていきます。



七団体が地域の絆強める

●道守佐賀会議

清掃と巻物でPR
2月に第11回目の『佐賀城下ひなまつり、おもてなし清掃』を開催しました。佐賀ひなまつり会場にお越しになられる方が気持ちよく散策できるようにと、発足当時より継続して実施、沢山の方が参加されました。
開会では、道を守り育てていくことの大切さや、佐賀会議の目的・活動状況及び、個人・団体・企業などの加入者募集も併せてお願いし、会場の隅々までおもてなしの清掃を実施しました。
また、昨年より取り組んでいます、みちに対する思いを書き連ねる『佐賀の道守巻物』についても実施し、好評のうちに終了しました。



ひなまつり、おもてなし清掃活動中

●道守長崎会議

イベントに参加、道守活動のPR
平成26年9月20日(土)・21日(日)に、長崎市大浦地区で「2014長崎居留地まつり」が開催。NPO法人道守長崎も大浦居留地商店街の通りにブースを設置して道守活動のPRを行いました。
お祭りに来られた方に簡単なアンケート（道守とは何をする人か？等）に答えて頂き、各地区（長崎・小浜・西海地区の清掃及び美化活動）の道守活動のPRを行い、全ての方が道守の意味や活動内容について理解して頂きました。



アンケートに答える人々

●道守くまもと会議

あまくさ風景街道が発足
道守くまもと会議は県内約30ヶ所の道守花壇の運営をはじめとする道路の清掃美化や、道への関心を高める活動、歴史的な道の顕彰など、様々な活動を行っています。

8月の道の日県下一斉清掃では、昨年熊本県内130ヶ所に及ぶ関係箇所との協力のもと、約5千人が参加。熊本市の市政だよりやNHKのデータ放送で、幅広く参加者を募ることができればと考えています。

また、風景街道活動では「九州横断の道 阿蘇くまもと路」に加え「あまくさ風景街道」が熊本県内2つ目のルートとして発足しました。天草地方にもこれまで以上に道守活動を広げていくのではないかと期待しています。



道の日清掃活動に5000人が参加

●道守大分会議

東九州自動車道県内区間が開通
東九州自動車道が3月21日に開通し、北九州～大分～宮崎間の縦軸がほぼつながりました。東九州地域の産業発展や観光振興として、また人命を守る「命の道」として道づくりに女性の会らが早期開通を願ってきており、悲願達成となりました。



別府大分毎日マラソン大会前日の1月31日、市民約1,000人でコースの一斉清掃を行いました。
道守大分会議と「ごみゼロおいた作戦」のメンバー約60人は、マラソンスタート地点の大分マリンパレス水族館「うみたまご」周辺の別大国道を担当。寒空の下、たばこの吸い殻や紙くずなどを拾いました。



別大マラソンコース清掃の参加者

●道守みやざき会議

アラマンダの維持活動を実施
国道220号沿いの日南市平山地区で、街道沿いにアラマンダを植える活動を続けている『宮崎日南生活ロード女性の会』（会長・山口勝子氏）。植栽の手入れと周辺の美化活動を定期的に行っています。

昨年12月4日にはメンバー30人が除草や清掃を行いました。この時期は落ち葉がアラマンダの周囲を埋め、落ち葉で袋がいっぱい。
アラマンダは熱帯花木のため、冬はやや苦手。無事に寒い季節を乗り越えて6月～9月にはまた黄色いラッパ状の花を咲かせてくれることを願っています。



アラマンダの世話をする宮崎日南生活ロード女性の会

●道守かごしま会議

『道守座談会』を開催
今年も『道守かごしま座談会』を開催しました。

今回はワークショップによる参加型の座談会を2会場（大隅ブロック、北薩ブロック）で実施しました。平成26年度の活動での問題点や活動を振り返り、次年度へ活かすための「ワークショップ」となりました。さらに、北薩ブロックについては、テーマを「ふるさと・人を結ぶ道」とし、玉川孝道氏による基調講演、「風景街道」の登録についての九州地方整備局からの制度紹介もあり、ワークショップでもかなり話題に上っていました。



ワークショップを実施



道守・新たな地平(ステージ)をめざして

10年を迎えた道守活動はどこへ向かうのか? —実証・実践する大会

道守九州会議交流会

みちづくし
in
大分
2014

表彰

今回で二回目となる道守功労者表彰を実施しました。

道守九州会議にご尽力いただいた次の方々の功績をたたえ、感謝状、表彰状が贈呈されました。



●感謝状贈呈

元九州地方整備局長 宮田 年耕さん

●功労者表彰

道守ふくおか会議 山田 三代子さん
道守佐賀会議 福山 貞子さん
道守長崎会議 宮田 隆さん
道守くまもと会議 黒木 嘉次郎さん
道守大分会議 富高 かをるさん
道守みやざき会議 ひかり児童クラブのみなさん
道守かごしま会議 田島 直美さん



金尾整備局長

樗木代表

桑野実行委員長



太田大分県副知事

小出大分市副市長

九州の道守が一同に集まった第11回「みちづくし in 大分2014」が平成26年11月21日、22日に大分市で開催され、三百余名の参加がありました。交流会は、実行委員長の桑野和泉氏の挨拶で始まり、樗木武道守九州会議代表世話人、金尾健司九州地方整備局長、太田豊彦大分県副知事、小出祐二大分市副市長からご挨拶をいただきました。第1部では、道守九州会議にご尽力された方々の「功労者表彰式」を行い、感謝の意を表しました。第2部では、道守ではないが大分県内で道に携わって活動されている団体に声をかけさせていただき、新たな仲間の活動報告をお願いしました。この大会の実行委員会が立ち上がった当初から、コンセプトを「10年を迎えた道守(我々)はこれからどこへ向かうのか?」を考えてきました。この大会を通じて、道守10年の深い活動を受け継ぎ、その思いを次世代に伝えていくことが我々の使命であり、道守・日本風景街道・道の駅の連携に努めることがベストだというひとすじの光が見いだされました。

第1部 対談 道守・新たな地平をめざして

●対談出席者

首都高速道路(株)代表取締役専務執行役員 宮田年耕氏
阪神高速道路(株)取締役兼常務執行役員 岡本 博氏
「中九州横断道路」の早期完成を願う女性の会長 堀 幸子氏
●コーディネーター 九州大学工学研究院教授・道守九州会議副代表 塚原健一氏



岡本博氏

話された。「発足当時、里親制度、VSP、道普請などがあつた。そこから九州の道守連携の芽生え、道守九州の輪の広がり、道守活動で生まれた意識や新しい運動(とるば、シーニックバイウエイ、通り名など)に広がった」。

次に道守活動の初期、九州地方整備局長だった宮田氏に、全国的視点から見た道守の特徴や印象など伺った。

「地方の元氣と道、道に携わる方々(道守、風景街道、道の駅等)の地域魅力作りへの役割や可能性」など今後への期待を述べていただいた。



会場からの活発な意見



道守創設時から活動を行ってきた堀氏が10年の活動を振り返って「竹田市へ通じる中九州横断道路」の地を歩いている様子。



宮田年耕氏

は2018年度に開通予定となっているが、それまで、陳情を繰り返したなど、苦労話を語った。

対談の総括として、①待望の東九州軸の実現、②今後の九州横断軸含めた



堀幸子氏

ネットワークを九州創生にどう活かすのか、③私たちが道守が活動を通じて地域活性化にどう貢献できるかを考える—などにまとめられた。

第2部 活動報告

●大分の新たな道守—17団体、18企業

道守10年、高齢化・予算確保の難しさなどの声が上がっており、新たな試みが求められている。それが「新たな道守」の発掘でした。道に携わり活動している団体はたくさんあります。が、「道守」の存在を知らないという団体・企業は、大分県内にも多く、一から道守10年の歩み、九州一円の道守の輪をPR



菅生小学校の活動報告

し、全県を回り、17団体・18の地元企業がその趣旨に賛同いただきました。

●上位表彰団体・発表者

●金賞

〈竹田市〉竹田市立菅生小学校

6年生…井 愛武くん

6年生…堀 大希くん

●銀賞

〈大分市〉NPO法人岡原花咲かそう会

理事長…木津 邦洋氏



歴代局長がずらり(左から)岩崎、吉崎、岡本、宮田各氏

道守10年、高齢化・予算確保の難しさなどの声が上がっており、新たな試みが求められている。それが「新たな道守」の発掘でした。道に携わり活動している団体はたくさんあります。が、「道守」の存在を知らないという団体・企業は、大分県内にも多く、一から道守10年の歩み、九州一円の道守の輪をPR

●銀賞

〈大分市〉大分国際情報高等学校

3年生…大塚 優さん

3年生…貞金 未那さん

2年生…菅 咲月さん

〈協賛企業（順不同）〉

大分銀行・大分合同新聞社・豊和銀行・九州労働金庫 大分県本部・大分信用金庫・株式会社まるひで・日本連合警備・株式会社 大常産業・高橋水産株式会社・九州建設コンサルタント株式会社・西日本コンサルタント株式会社・松本技術コンサルタント株式会社・平和商事 株式会社・株式会社 エポックアート・株式会社三清社・株式会社地域科学研究所・ホルトガーデン・由布院玉の湯

●各県会議からの活動報告

【道守・新たな地平をめざして】をテーマにこの10年の歩みを礎に新たな地平（ステージ）を志向する場とし、各県から活動報告が行われました。

道守ふくおか会議 北里 幸良氏
道守佐賀会議 中島 三毅氏
道守長崎会議 宮田 隆氏
道守くまもと会議 守山 隆氏
道守みやざき会議 中島 隆志氏
道守かごしま会議 上野 秀一氏

をいただきました。

アトラクションは、「大分らしさ」を意識し、別府・流しのはっちゃん・ぶんちゃん&砂湯ガールズが登場、出演者にとどまらず、参加型ダンスで盛り上がりました。



竹田の女性の会



蒲江の女性の会



大会旗を次回開催地・福岡へ



活動報告・福岡 北里氏



活動報告・佐賀 中島氏



活動報告・長崎 宮田氏



活動報告・熊本 守山氏



活動報告・宮崎 中島氏



活動報告・鹿児島 上野氏



はっちゃん・ぶんちゃん



砂湯ガールズ



司会の事務局



会場の様子

●現地体験学習会

2日めは、NHK大河ドラマで沸いた「黒田官兵衛と別府・中津ツアー」と「新しくなる街、大分まちあるきツアー」を行った。

黒田官兵衛ゆかりの地を巡る旅で大河ドラマのクライマックスと時期が重

●大会宣言

1. 道守活動10年の間に東日本大震災をはじめ多くの災害を経験し、私たちは国土の隅々まで道が繋がることの重要性にあらためて気づきました。

2. 新しく生まれ変わりつつある大分市で開催されたこの大会では、新たなステージを实践すべく、県内各地の「がんばる道守」の発掘、日本風景街道。道の駅との連携を模索し、大きな一歩を踏み出すことができました。



亀野副実行委員長の大会宣言

3. 今一度「道はみんなのもの」と心をついに力を合わせて道を守ることを誓い、ここに志高い若い力を得て、「道守」の和をさらに広げていくことを宣言します。

みちづくし in 大分2014
参加者一同

●交流集会

環境省放射性物質汚染対処技術統括官の吉崎収氏によるご挨拶でスタート。道守屋台では、各県のイベントや情報が紹介され、大分の屋台では道守メンバーの竹田・蒲江の女性の会が地産地消のお料理でもてなしなど大好評



ホスト役の道守大分メンバー

なり、移動のバスの中でも大変盛り上がりしました。

2015年春に次々にオープンして



黒田官兵衛と別府・中津ツアー

いくJR大分駅、県立美術館をめぐるツアーで、大分市の魅力を知っていただけるきっかけになりました。



楽しくなる街、大分街歩きツアー

みちづくし in 福岡 2015
今年は福岡県柳川市で開催します!!

日程 平成27年11月13日(金)・14日(土)の2日間
1日目：交流会 会場 柳川総合保険福祉センター「水の郷」懇親会 会場 柳川藩主立花邸 御花
2日目：現地体験学習会



第1回実行委員会の様子





H23開催された道守みやざき交流会



H25道路の清掃

岡市北川町において「北川の文化と自然に触れる秋」と題して、家田湿原・西郷隆盛宿陣跡資料館などを地元会員の案内でめぐり、地域に伝わる工芸品やお菓

と願っています。東九州自動車道の全線開通に伴い、南北に長い宮崎県もこれからますます便利になり、地域をまたいだ密接な関係づくりが可能になることでしょう。道が縁を結ぶ交流を、今後も長く続けて行きたい

宮崎 地域からの報告 道守みやざき会議

道守みやざき交流会のあゆみ

平成16年の発足以来、シンポジウムや勉強会を実施してきた道守みやざき会議。平成21年の「みちづくしinみやざき」開催をきっかけに県内各地の道守活動をもっと身近にもっと深く知りたいという機運が高まり、1泊2日のスケジュールで行う「道守みやざき交流会」

が平成23年から始まりました。最初の開催地は県西部に位置する都城市。「道」から街を知る、文化を知る」をテーマに、明治時代の建物をカフェとして甦らせた「もちなが邸」周辺の街歩き、そば打ちワークショップ、一帯の植栽活動を行いました。企画段階から現地の道守会員が中心になってアイデアを練り、地元の行政職

員・国交省・事務局が連携して運営を担当。スタッフが確立しました。2回目は県北・延岡市北川町において「北川の文化と自然に触れる秋」と題して、家田湿原・西郷隆盛宿陣跡資料館などを地元会員の案内でめぐり、地域に伝わる工芸品やお菓

と願っています。東九州自動車道の全線開通に伴い、南北に長い宮崎県もこれからますます便利になり、地域をまたいだ密接な関係づくりが可能になることでしょう。道が縁を結ぶ交流を、今後も長く続けて行きたい

私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。



東シナ海を展望できる海岸線



一条坂



西郷どんの腰掛石

道 | な | き | の | し | た | わ

北薩摩西海岸と歴史の古道

～世代、時代をつなぐ薩摩街道出水筋～

鹿児島県の北西部に位置する北薩摩の長島町、出水市、阿久根市、薩摩川内市、いちき串木野市、日置市5市1町エリアが平成27年3月に新しいルート「薩摩よりみち風景街道」として設立され、日本風景街道に新規登録される見通しです。このルートが登録される事により、熊本のみならず、日本風景街道、鹿児島のかごしま風景街道が1本の道として繋がります。この街道は、東シナ海を眺望できる海岸線が続き、その海岸線に並ぶように九州の交通を繋ぐ国道3号線と全国でも話題にもなっている肥薩おれんじ鉄道もあり、その海沿い地域の海の幸、山の幸の食を堪能出来ます。

また、その山手側には昔の人々の文化交流の道でもあり、藩主の参勤交代の道としても利用されていた「薩摩街道出水筋」が通っています。歴史上の人物では、天璋院篤姫が江戸に向かう時にも通り、坂本龍馬も薩摩に来た際に薩摩街道出水筋を利用しています。このエリアは、まさに自然、歴史、文化、風景、食、人の地域資源が最大限生かされているエリアと言ってもいいでしょう。

その中で、私は薩摩街道保存会に在籍しており、保存活動しながら北薩摩エリア5市を縦断している薩摩街道出水筋を完歩しております。歩行経路の中でも好きな道は、約27キロある薩摩川内市区間です。この区間には土や草の道や山林を歩きながら自然に親しみ、西郷どんが狩りの途中で休まれたという腰掛石、藩主が宿泊する御飯屋など歴史にもふれる事ができ、一条神社や秀吉と島津義久が和睦を結んだ泰平寺等の文化的な場所もあり、西方峠を下って行くと東シナ海の青い海と人形岩の眺望が広がる素晴らしい風景が見られます。

薩摩街道保存会に在籍していた関係で道守がごしめ会議にも参加させて頂くようになり、ふるさとの美しいみちづくりを各種団体、行政の方々と協働に同一目的に向かって活動しています。

今後、薩摩の歴史街道を保全する薩摩街道保存会と道を通じて地域、故郷を愛するボランティア団体道守がごしめに携わりながら「薩摩よりみち風景街道」のパートナーシップ団体と行政関係の方々と一体化し、また現在のそれぞれの活動を継続することにより景観保全、地域振興、観光振興に取り組んでいかなければなりません。「世代、時代をつなぐ道」に向かって。



プロフィール
吉留 博文 (よしどめ・ひろふみ)
鹿児島県薩摩川内市在住。熊本工業大学(現 崇城大学)建築学科卒業後、建設会社に勤務し、平成14年吉留建設(株)入社、現在代表取締役就任。薩摩街道保存会理事。

宮崎



オープンガーデン サン・フラワー宮崎

楽しく植栽ボランティア!

私達「オープンガーデン サン・フラワー宮崎」は、花の好きな仲間が集まりです。自宅の庭を美しくすることが何よりも楽しみで、年に2回の見学バスツアーでお庭を公開したり、講師を招いて花の育て方の講座や講演を開いたり、常に植栽の知識・技術の向上を計っています。花植栽の技術を生かして街が美しくなればとの思いから、中心市街地で植栽ボランティアをしています。週に2回、会員が交代で剪定や花がら摘み等の手入れをするので花が長持ちし、道行く人に「いつもきれいですね」とほめていただくのが喜びになっています。

春・秋に行われる植栽イベント「まちなかフラワーパーク」では、開会式で「植栽体操」の指導をします。約300人のボランティアの体と心がほぐれ、笑顔で楽しく植栽ができるよう工夫しています。



私達の活動が道路の景観向上に役立ち、社会貢献となることを心から願っています。
(武田千哉子)

ぶぜんあじさいクラブ

福岡



「道の駅豊前おこしかけ」で
花植え活動を頑張ってます！

私達「ぶぜんあじさいクラブ」は社会福祉法人 周防学園の通所部の職員2名、利用者10名のグループです。

活動拠点は、道の駅「豊前おこしかけ」で平成17年より業務委託を受け、花壇の管理及び駅内の清掃活動を行っております。

毎週一回、道の駅に出掛け花壇の草取り、花の苗の植え替え、あじさいの手入れ、駅内のゴミ拾いを行っています。

メンバーも少なく、高齢な方もいらっしゃるのですが、中々大きな事は出来ませんがコツコツと少しづつ、ドライブの途中に立ち寄って頂きます皆様の大変なひと時が良い思い出になりますよう頑張りたいと思います。

桜の蕾も綻んでまいりました、6月には色とりどりのあじさいが見られますので是非、「豊前おこしかけ」へお立ち寄り下さい。



また、おこしかけお立ち寄りの際、私達が作業しておりますからお気軽にお声掛け頂きますと利用者の励みになりますのでよろしく願います。
(代表 楠本栄一)

佐賀



株式会社大島組

創立記念日にあわせ清掃活動

弊社では、26年前に創立80周年記念事業として鳥栖市河内町の河内ダム周辺の県道・市道沿いに100本の桜を植樹いたしました。河内ダムの付近には市民の森や河川プール、また食事と宿泊も出来る施設などもあり市民の憩いの場となっています。

それから後、6月1日の創立記念日にあわせ6月第一週の土曜日を「ボランティアの日」と定めて、毎年桜を植樹した道沿いの下草刈りと路肩のごみ拾いを会社全員で始め続けています。

この鳥栖の地に根付き、地元の皆様に育てられ今の大島組があります。わが社は道路整備のお手伝いをしておりますので、日頃の感謝を込めて皆様が気持ち良く道路を往來していただければと始めました。



桜の苗木も7〜8mほどに成長し毎年美しい花を咲かせてくれます。今の子供たちが大人になっても桜の並木道をいつまでも楽しめるようにこの活動を続けて参ります。
(代表取締役社長 大島弘三)

長崎



扇精光グループ

地域の道は我らがきれいに
「地域と共にこれからも」

私たちは、長崎市内に本社を持つ地元企業です。「ボランティア長崎」の活動は、平成25年8月から、月に1度の清掃活動を行っています。毎回20名で国道34号 日見山口バス停〜大曲バス停まで上下線約1.0kmの歩道を清掃しています。これまで計19回、延べ380名が参加しました。



活動当初は、ツタや雑草が歩道にはみ出し、歩行の妨げになっていましたが、毎回の清掃により雑草が取り除かれ、地域の方からも「きれいになった」、「歩きやすくなった」とのお声を頂き、活動の「糧」になっていきます。また、清掃活動の作業改善としてゴミ集積時にカートを導入し、ゴミを随時載せて運ぶようにしたところ、清掃が効率良く出来るようになりました。

これからは、「道守活動」を通じて、次の3点を心掛けます。

- 1、歩道利用者の安心安全を提供する。
- 2、地域住民の「道」に対する関心を高めていく。
- 3、地域住民の皆さんと「協働」して管理していく活動の場とする。

最後に、今後も担当エリアを美しく保つべく、扇精光グループ社員一同力を合わせて「道守活動」に取り組んでまいります。
(永瀬徹)

熊本



熊本市水道町

道行く人にやすらぎを

平成20年より道守くまもと会議の一員として熊本市中心部の水道町交差点にある4ヶ所の花壇の維持管理を続けています。この交差点は国道と県道が交わる熊本でも随一の大きな交差点です。平日はお仕事の方など、休日はお買い物に來られた方などで終日人通りが多い場所でもあります。

毎年7月頃と12月頃に花苗を植え換え、日々手入れに励んでいます。また4ヶ所それぞれに大きなクスの木が植わっているため、その落ち葉の清掃も行っています。毎年植え替えにあわせて堆肥を鋤きこんだかいあって土質もかなりよくなっているようで、一層花も元気に育っています。その分雑草も元氣なため草取りには手を焼いている所です。



人目が多いことから手入れには気を使いますが、その分やりがいもあります。「眺めていると信号待ちの時間が短く感じられていいですね。」など通りがかりの方からの言葉が活動の原動力となっています。
(道守くまもと会議事務局)

大分



社会福祉法人宇水会

季節の花植えや草刈り

社会福祉法人宇水会の理念である『開かれた施設づくりと地域への貢献』に基づく取り組みを3つ紹介します。

1. 毎月、各施設周辺の道路のゴミ拾い等の清掃活動を朝30分程度、職員全員で行っています。その際、通学途中の子ども達へ挨拶が定番になっています。



2. 宇佐神宮参道にある御神木のイチイガシの木を管理する『アダプトプログラム(里親制度)』を行っています。季節の花を植え、草取りや水やり、周辺の清掃活動等は地域の皆さんとのコミュニケーションできる場にもなっています。『利用者からは「花や緑に触れ合うと心が安らぐね。」といった声も聞かれ、とても楽しい語らいの場となっています。』

3. 地区の草刈りに協力をしています。高齢化が進み、草刈り機での作業に困っておられた地区の皆様に変喜ばれています。『自然を守るという意識』と『地域への貢献の心』を常に持ち、ゴミ拾いや空き缶拾い等の小さな活動の積み重ねが『みんなの道を守る』という意識づけになり、その思いが環境保護に繋がっていくと思います。

今後も私どもに出来る活動を行い、更なる『道守』の活動をしていきたいと思っています。
(特別養護老人ホーム宇水園 総務部長 本多武士)

鹿児島



たるみず折鶴

「手洗い」に活け花

私達、たるみず折鶴は女性9名のボランティア中心のグループです。

荒崎パーキングエリアのトイレの中の男女手洗い場に週1から2回の一輪の花を活け、トイレの前のプランターとパーキングの一角に紫陽花を植え、草取り、ごみ拾いを月1回行い利用する皆さんに喜んで頂いております。

荒崎パーキングを利用する皆様に気持ちよく使って頂けるように、これからも頑張っております。
(代表 美坂康子)



天草島原の乱とジオパークが織りなす

「あまくさ風景街道」に行く

樗木 武（九州道守会議代表世話人）

天草はいまでもなく観光の島だが、このほど「あまくさ風景街道」の名で日本風景街道に登録された。これを機にと久しぶりに訪れれば、15を数えた自治体も、平成の合併で上天草市、天草市、苓北町の2市1町と大きく括られた。とはいえ、慣れ親しんだ地名を頼りに島の景勝地、史跡を思いだし巡れば、単なる島の暮らしや歴史にとどまらない、想像を超えるビッグな風景街道が躍り出たの思いだ。

橋でつながる天草の島々

50年前、天草五橋が完成。その開通式にと福岡からはせ参じた。著者と天草の最初の出会いだが、当時は九州自動車道がなく、真夜中に車で福岡を出発。天候が悪い中ぎりぎり開通式に間にあって天門橋を渡り、国土づくりに関わる人生に迷いなしと意を強くした。そしていま、平行して新天門橋が建設中。これまた新たな出会いであった。JR特急「A列車で行こう」、イルカの天草エアラインと共に、快適な風景街道の実現に寄与する熊本天草幹線道路路

の整備が進みつつある。

さて、天草は百余の島々からなる。九州における風景街道13のうち、こうした島々の纏まりは本ルートのみだ。しかしながら、五橋をはじめ、その後に島々を繋ぐ橋が数多く建設された。多彩な形式があり、橋の展示場といつてよい。宇土半島を経由し、大矢野島、天草上島、天草下島など多くの島が九州本土に連なる。本風景街道は橋で繋がる島々の沿岸道路をメインとする（図1）。藍より青い海と多彩なジオサイトが織りなす風景やその歴史秘話の寄り道が「あまくさ風景街道」である。

天草島原の乱をたどる

「あまくさ風景街道」の重要資源の一つは、わが国近世史上重大な意味をもつ天草島原の乱であり、南蛮文化の里である。

江戸時代初期、若干16歳の天草四朗を総大将に、島原湾を挟む天草と島原半島の農民ら3万人余が貧しさゆえに蜂起、幕府軍勢12万人に立ち向かった。その心の支えにと、厳しい弾圧にもか



写真2 夕日に浮かぶマリア像(天草市河浦町崎津)

トラインだ。

「天草の十三仏の山に見る 入日とむらさきの波」（与謝野鉄幹）。北部が立ち帰りクリシタンなら、南部はかくれクリシタン。そこに海の青と夕日が混じるむらさきの南蛮文化が花開いた。象徴は大江天主堂と崎津教会だが、前者は白亜のロマネスク様式、後者は重厚なゴシック様式。趣を異にしてたどる巡礼の道である。

まるごと天草ジオパークだ

いま一つは、天草の地形・地質が生み出した固有の原風景である。限られた島ながらも、太古の変成岩から、現代の沖積層まで、時代ごとに幾重にも重なる地層の露頭を見ることができ



図2 一億年を記憶する天草ジオパークに行く

天草最高の倉岳で682m。中小の山からなる島々だが、褶曲、隆起・沈降、浸食・海食により1億年の記憶を刻み込んだ多彩な地形が創出された。

2009年、18の島々からなる旧御所浦町が化石の島として注目され、日本ジオパークに加入。しかし、よくみれば、ジオサイトは島全体に点在、天草まるごとである（図2）。これから昨年改めて天草ジオパークが認められた。

主なジオサイトを廻れば、まずは大矢野島から天草上島に渡る間に、日本3景の一つ天草松島がある。長崎県の



図1 島々からなる「あまくさ風景街道」とそのメインロード

かわらずクリシタンに立ち帰ったといわれている。

天草四郎が育った大矢野島から天草パールライン（国道266号）を進めば、天草上島。そこからありあけタコ街道（国道324号）をたどると、乱緒戦の地がある。さらに進めば本渡の激戦地、攻めあぐねた富岡城がある。そして、少しもどつての乗船の地から島原湾を渡って全員が立て籠り、討ち死にした原城となる。これら一探勢の戦いの道をたどるところこそ天草北部地域の歴史秘話を行く風景街道である。

ついで、富岡から砂浜と岩礁が織りなす景勝を眺めながら国道389号を下り、天草下島の南部に至る道がある。天草西海岸サンセツ



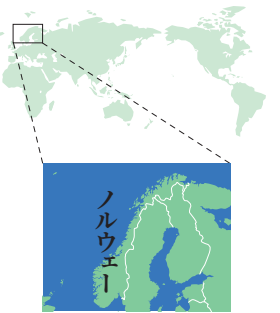
写真1 天草島原の乱の総大将・天草四郎の像

不思議の国の宝島を行く思いであった。がりがり径から快適な道へ

明治時代、与謝野鉄幹と4人の文学青年が西海岸を歩き、紀行文「五足の靴」をものした。その一文は「外海の波が噛みつくがりがりの石多き径」であった。しかし、現代は国道、県道、広域農道が整い、島の至る所快適なドライブが楽しめる。前述に加え、イルカウォッチング、マリンスポーツ、ウォーキング。そして各地に温泉、豊かな海の幸、岡の幸がある。「五足の靴」が今を歩けば、紀行文も「楽しく快適な道」としただろう。それが「あまくさ風景街道」だ。



写真3 天草を繋ぐ天草五橋(天草パールライン)



ミニマムでリッチな ナショナルツーリストルート

させて頂いた欧州滞在中でも、もっとも印象的だった道体験を紹介したい。それはノルウェーのナショナルツーリストルート。こんな道だった。

ホテルに着いたのは、前夜の9時過ぎ。オスロ空港から6時間の道のりだったが、さすがに北欧の夏、外はまだまだ明るい。山荘風のホテルでぐっすり眠った私たちは、抜けるような青空の中、「ガイランゲル／トロールステイゲン」ルートへと車を走らせた。国道から脇に入るその道は、離合もぎりぎり、ガードレールも最小限。おっかなびつくり進んでいった私たちをいきなり出迎えてくれたのは、残雪の残る山並みを鏡のように映す静かな湖。氷河の動きや地形の隆起がつくった、まさに神の造形だ。もうそこから最



ナショナルツーリストルートの道路



岩肌から突き出たテラスと九十九折りの道路

後まで、全長104kmの距離が全く気にならないくらい豊かな風景が私たちを楽しませてくれる。ごつごつと隆起する岩山や、奥深くまで大きなフェリーを迎え入れるフィヨルドの入江、轟々と音を立てて水が流れ落ちる滝などの雄大な自然。また優れた眺望スポットには、岩肌から突き出したアクロバティックなものなど、デザイン的に優れたテラスや休憩所が設置されている。それら人工物と大自然とのコントラストが楽しい。およそ12時間のドライブの最後には、にわか雨のあとの虹が私たちにお帰りといつてくれているようだった。

さて、このナショナルツーリストルート (<http://www.nasjonalturistveier.no/en>) は、1997年につくられた構想に始まる大プロジェクトで、ノルウェー道路庁が主導しつつ、10の国家機関、64の市町村が参加している。全18ルート、総延長2059kmで構成され、2005年から13年までの第1期、2023年までの第2期に分かれて整備されている。2013年までの総投資額は現在のレートで約450億円(約30億クローネ)。そもそもノルウェーは、GDPに対する観



フィヨルドの奥深くにある港町

光の比重が石油・ガス、漁業に次いで大きく、観光政策は重要な国家的関心事であった。そこで、道路庁が着目したのは整備の遅れた旧道であった。早く便利に走る道から、のんびり休み休み通る道へ。彼らはそれらの道に対して、ノルウェーの大自然をゆったりと体験してもらうことを最も重視して、最低限の道路メンテナンスと自国の若手デザイナーを抜擢したアクセントを施し、わざわざ極東からも人を呼び寄せる資源へと再生させた。私たちが暮らす九州あるいは日本にも、これらに負けないお宝が必ず眠っているはずだ。



プロフィール
星野 裕司
熊本大学大学院自然科学研究科准教授。2014年4月より15年2月まで、シュトゥットガルト大学客員研究員。2006年より現職。

道守 人物伝

生き生きをモットーに！ 市民ボランティア活動20年

（み）ゼロ青春探検隊いとしま 酒井忠彬さん



平成7年1月の阪神淡路大震災をきっかけに自分たちは社会に生かされているとの思いを強く抱き、社会に恩返しをしようとボランティア活動を始められました。美化清掃点検活動の場所は国道を中心に駅や公園、通学路や公共施設内で、メンバーは40人を超えています。道守さんとして道守九州会議発足と同時に参加し、また玄界灘風景街道の糸島地区世話人として参画されています。

その功績に対し、平成19年度には国土交通大臣から感謝状を受章され、平成25年度には福岡県地域貢献部門賞を受賞されました。

企業や市民団体に呼びかけながらの国道202号の清掃活動、小学校では総合学習の講師として児童と共に考え、学びながら成長を見守り続け、今年で7回目を迎え、JR九州との共同事業に発展した「歩く唐津街道の旅」にも関わるなど道守活動や風景街道の発展に大活躍の毎日です。

酒井さんは「往く道・続く道・道守の道は精進にして呼びかけ、忍びて悔いなし。」という思いを胸に活動を続け、道や町が美しくなるよう、日々頑張っているといふ（尾木幾子）



道守たちのトピックス

九州地方整備局管内における

重点「道の駅」を選定

国土交通省では、地域活性化の拠点を形成する「道の駅」の取り組みを応援するため、重点「道の駅」制度を創設いたしました。九州地方整備局管内におきましても『3駅』が選定されましたので、ご紹介いたします。

重点「道の駅」(国土交通大臣選定…3駅)

●道の駅「うきは」(福岡県うきは市)
深刻な高齢化や九州北部豪雨災害で被災した中山間地域で、高齢者や女性がいきいきと働き暮らすための拠点として整備します。

また、水と緑のまちとして「EVをフル活用したネットワーク」を道の駅を拠点に構築してヒト・モノの流動を活性化させる取り組みを行います。

●道の駅「鹿島」(佐賀県鹿島市)
体験型観光＋生物多様性を学ぶ干潟環境教室を道の駅を中心に実施し観光交流人口を拡大するとともに産業活性化施設「海道しるべ」と連携し、「道の駅」オリジナル商品を開発します。

また、道の駅を拠点とした買い物弱者への宅配サービス強化するため、空き店舗等を宅配サテライト施設として整備します。

●道の駅「小国」(熊本県小国町)
国鉄跡地に道の駅「小国」を整備し、交通センター、観光情報発信基地として機能してきたが二十年が経過しています。環境モデル都市を契機に、新しい町の窓口として、移住定住対策や観光総合機能、カーボンニュートラル材仕様の多目的モデルハウス等を整備し三後の要(肥後・豊後・筑後)として更なる機能強化を図ります。



横顔 道路情報管理官



4年ぶりの九州勤務、4月1日付で道路情報管理官に就任され、「道守」を担当されることになりました。道守九州会議に道路管理課長の時にも関わっていましたので、

「お帰らない！ 今後ともよろしくお願いします」と言ったところでしょうか。

ご本人は、「これまで以上に道守の皆様方と協働・連携し努力して参りたい」という意気込みです。

道守通信 編集後記

○道守九州会議が発足して11年。新たなステージをめざして動き始めました。この10年の活動は意義深く貴重なものであり、それぞれの地域で個性を生かした活動の継承を实践されている中、会員の皆様の思いはきっと次世代へと伝わっていくことも確信しました。

○今回の巻頭インタビューは金尾九州地方整備局長です。道守活動に敬意と感謝の言葉と共に、今後は様々な政策提言をいただきたいとのことでした。道守の皆さんへの期待の高さがうかがわれます。ますます励みになることでしょう。

○今回の「風景街道を行く」は、樗木代表執筆の天草島原の乱とジオパークが織りなす「天草風景街道」です。樗木先生は50年前に完成した天草五橋の開通式に出席されたとか、時代を感じますが、天草観光の幕開けに立ち合わせ、その「あまくさ風景街道」への熱い思いにはロマンを感じます。○今秋には柳川市で「みちづくしん福岡2015」が開催されます。懇親会は、柳川藩主立花邸「御花」です。翌日の現地体験学習も楽しみです。乞うご期待です。多数のご参加をお待ちしています。



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
平成27年5月29日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室（九州地方整備局道路管理課内）
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■（一社）九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp